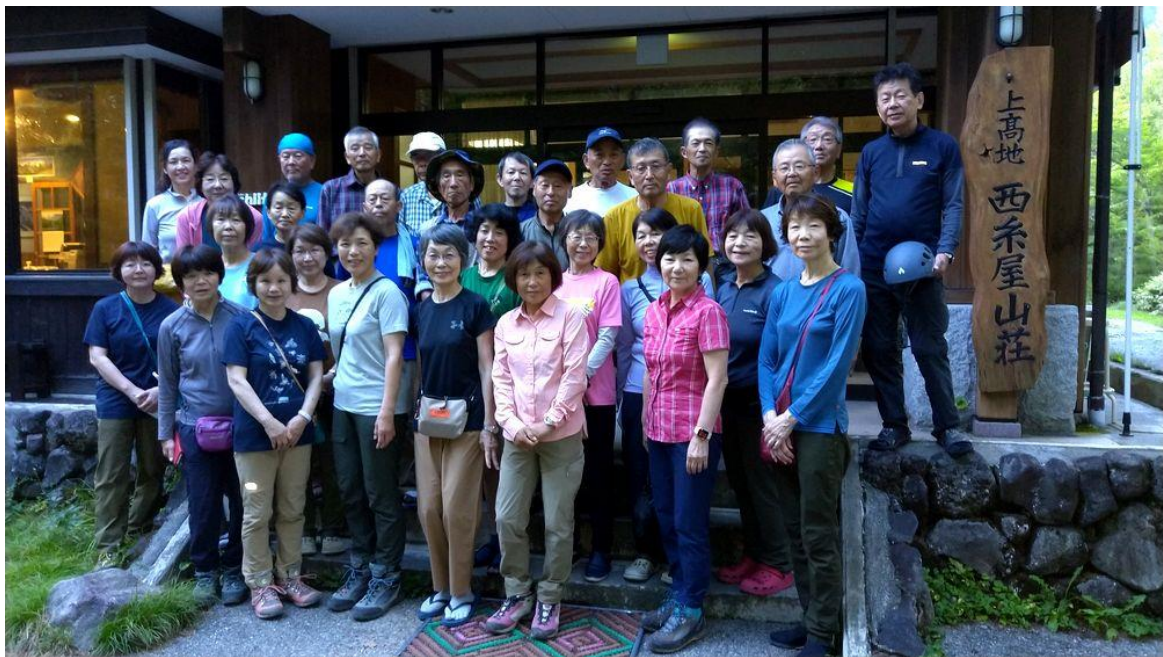


# 山行報告

## 2023 夏山集中登山①～⑤コース

- 山 域：北アルプス
- 参加人数：男性13名 女性17名
- 集中日：8月22日(火)
- 集中場所：西糸屋山荘



### ■①コース 西穂高・独標

- 日 程：8月21日(月)～23日(水)
- 参加者：L佐々木(丸山班) 泉 一瀬 兼本 松岡  
(独標A班) L三木(悦) 岡田(淳) 黒本 仲田  
(独標B班) L中村 岡林 橋本(健) 松田
- 行動記録：  
(21日)：高山駅(13:25集合)13:28発～新穂高ロープウェー(14:46着)15:00発～  
西穂高口駅(15:28着)15:44発～西穂山荘(17:13着)

(22日) : 西穂山荘 6:47 発～丸山(7:11 着)7:16 発～独標(8:27 着)8:37 発～  
丸山(9:38 着)9:42 発～西穂山荘(10:03 着)10:57 発～焼岳分岐 11:10 通過～宝水  
12:03 通過～田代橋登山口(14:15 着)14:20 発～西糸屋山荘(14:50)着

## ◆丸山・独標コース

兼本

1、今年の夏山山行の最大人数(13人)のパーティーとなった本コースは、当初のリーダーの直前の交替という危機を乗り越えて、無事修了しました。

2、8月21日(月)、姫路発 8:53 のぞみにて同行者四人で出発。名古屋経由、名古屋発 10:48 ひだで高山へ。ひだの車中は外国人の観光客が目立った。高山駅にて全員集合し、新穂高ロープウェー乗場へ向けて 13:30 ジャンボタクシー2台に分乗し出発。ここまで夏らしい晴天に恵まれていましたが、到着前に大雨になる。

15時発の第一ロープウェーに間に合い、西穂高口駅まで900mを一気に上る。日本初の二階建て構造のゴンドラを有する第二ロープウェーへ移動。雨とガスで景観は今一。

西穂高口駅で雨具の用意して 15:44 西穂山荘へ出発。整備された登山道を順調に進み、17:13 山荘着。玄関内入口正面に、山荘の創設者である村上守氏の写真が飾られている。



夕食はまずまず。問題は部屋の換気の悪さ(暑さ)。同室者全員かけ布団無しで寝ていた。

3、8月22日(火)朝6時朝食後、快晴の下、独標組はサブザックのみで6:47 山荘出発。丸山組はゆっくり8時に山荘を出てのんびりとハイマツの中を進む。30分程で丸山着。幸い、

我々のグループのみで、しかも快晴という好条件下、前穂・明神・上高地等360°の大展望を満喫。女性陣はちょい先までお散歩に出る。

独標組の下山を遠目に確認後、一足先に丸山を下る。10時、山荘に全員集合し各々食堂にて昼食をとる。名物のラーメンを食べたが、味は何だか・・・。

11時、山荘を出発し、上高地まで900mの下山を開始。焼岳分岐を右に見て急勾配を経て宝水へ。ここで、下り三分の一。さあ、ここから!木の階段が整備されているが、下り難い箇所がある。各々の体力・脚力に応じて疲労度が増していくが、ひたすら下る。

沢の水音が聞こえ始め、上高地の街並みが見えてくる。14:15 田代橋登山口着。記念撮影後、ぶらぶら歩き西糸屋山荘 14:50 着。

尚、トータル我々の歩行ペースは「山と高原地図」の標準タイムの1.3~1.4倍とのこと(b y、三木さん)。

4、8月23日(水)、上高地BTを10時出発。平湯経由高山11時半着。昼食場所を求めて散策。庶民向け飛騨牛を食す。次は本物の飛騨牛を食べようと思う。

濃飛バスセンター発 13:40 大阪行きのバスに乗車する。降車は予定を変更して 17:50 京都駅とした。以降、各自 JR にて帰宅する。

想定外のトラブルもあったが、リーダーはじめパーティーの協力の下乗り越え、思い出深い山行を楽しめたことに感謝致します。

## ◆山行2日目 独標を目指して

岡林

高御位山遊会に入会して1年、初めての夏山集中山行、すべてが初体験です。山小屋での宿泊はよく眠れず、真夜中に見上げた空は満天の星がとても近くて高い山に来たんだと実感しました。翌朝は朝焼けがとてもきれいで、高校生たちの集団が登山を開始していました。自分もこのあと登るんだと思うとどんどん緊張してきました。

6時47分登山開始、丸山組の励ましを受けて出発です。いきなりの急坂がまだエンジンのかかっていないからだにこたえます。一步ずつ前に進みようやく丸山に到着。つかの間の休憩で、あたりを見渡す余裕が生まれました。昨日の雨が汚れを洗い流した真っ青な空、雲海の上に顔を出す山々。何を見ても「すごくきれい！」の一言でした。

5分後、独標を目指して出発です。朝早い登山だったので、他の人と出会うこともほとんどなく、自分のペースで歩くことができました。ガレ場で早朝に出発した高校生の集団とすれ違いました。「どこまで登ったの？」の問いかけに「独標まで」の答え。さっき前を見上げたときにたくさんの人がいたあの場所がこれから目指す独標なんだと再確認、気持ちを引き締めました。

独標まであと少し、リーダーから「三点支持で、前の人の足の置き場をしっかりと見て」と声がかかります。ゆっくりと足場を確認しながら進みました。平らな岩を選んで足を置き、手でしっかりと岩をつかみ、切り立った岩場を登りました。一か所細くて急な下りがあり、今まで以上に慎重に進みました。また、雷で亡くなった高校生の碑があり、こんなところで雷にあったらどこにも逃げ場がないなど冥福を祈り、天候に恵まれたことに感謝しました。

○印や矢印をたよりに進んでいると、上から「着いたよ。」と声がして「えっ！もう着いたの？」最後の岩を慎重に登り切ると、視界が開けました。ゴツゴツした岩の先に西穂高岳独標2,701Mの文字が見えます。8時27分全員が到着しました。頂上には私たちの他には2,3人だけ。あたりを見渡し、互いに写真を撮っていると、若い父親と小学校低学年の男子が休む間もなく次を目指して岩を下っていきます。すごいなと思いながらも、まだ登っただけ、これから無事に下山することが一番大事と気持ちを切り替えました。



8時37分下山開始。登り以上慎重に一步ずつ下っていきます。でも登りでは気づかなかった足元の花を見る気持ちのゆとりも出てきました。丸山で小休止、西穂山荘の前で待っていたみ

みんなが手を振ってくれた時、ようやく肩の力がぬけました。全員が無事独標に到達できたことで、登れず応援してくれた仲間に責任が果たせたように思います。

山行までの様々な変更に対応してくださった佐々木さんはじめ独標リーダー、サブリーダーの方々、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。また、グループのために何かと配慮して動いてくださった会計の黒本さん、困ったときに助けてくださったメンバーの皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。



## ■②コース 前穂高岳・奥穂高岳・焼岳

●日 程：8月20日(日)～8月23日(水)

●参加者：穂高L尾内 SL高島 焼岳L高島 SL尾内 笹木

●行動記録：

(20日)：上高地 BT(11:55 着)12:30 発～西糸屋山荘(12:40 着)12:50 発～岳沢登山口 13:15 発～岳沢小屋(16:10 着)

(21日)：岳沢小屋 3:50 発～カモシカの立場(5:15 着)5:35 発～岳沢パノラマ(6:20 着)6:30 発～雷鳥広場(7:30 着)7:40 発～前穂分岐(7:50 着)8:00 発～前穂高岳(8:45 着)9:00 発～前穂分岐(9:40 着)9:50 発～奥穂高岳(12:30 着)12:50 発～穂高岳山荘(13:30 着)

(22日)：穂高岳山荘 5:15 発～涸沢小屋(7:00 着)7:05 発～涸沢ヒュッテ(7:10 着)8:05 発～本谷橋着(9:20 着)9:45 発～横尾山荘(10:40 着)10:55 発～徳澤園(12:05 着)12:40 発～西糸屋山荘(14:30 着)

(23日)：西糸屋山荘 3:55 発～田代橋(西穂登山口)4:10 発～焼岳登山口(4:30 着)4:35 発～峠沢(5:25 着)5:30 発～焼岳小屋(6:50 着)7:00 発～中尾峠(7:20 着)7:25 発～焼岳北峰分岐(8:50 着)8:55 発～焼岳北峰(9:00 着)9:15 発～焼岳北峰分岐(9:20 着)9:25 発～中の湯新道分岐(10:15 着)10:20 発～焼岳登山口入口駐車場 11:50 発～中の湯温泉旅館(12:10 着)12:25 発～中の湯バス停(12:55 着)13:05 発

### ◆前穂高から奥穂高、さらに焼岳へ、名峰三座に登る

笹木

4年前、涸沢カールで穂高連峰のモルゲンロートを見た。いつかあのザイテングラードを越えて穂高の頂に立ってみたい。その夢が今年、岳沢から前穂高を経て奥穂高へという形で実現した。帰ってきて一週間経った今も夢の中にいるようだ。

8月20日 上高地 BT～岳沢小屋

西糸屋山荘に不要な荷物を置いて12時50分に出発する。梓川の右岸を歩き始めて間もなく冷たい風が吹いたと思ったら雷鳴を聞き、雨が降り始めた。急いでカップを装着して岳沢沿いに樹林帯を登って行く。大きな岩を踏み越えながら2時間も登ると足が上がりなくなりペースダウン。さらに一時間登りゴロゴロ石に埋め尽くされた沢を渡ると岳沢小屋に着いた。乾燥室で濡れものを乾かし、高台に設置されたお洒落なブランコに乗った。仰ぎ見れば穂高の岩壁、見下ろせば避暑地上高地。夕食はバイキング形式でカレーを中心に総菜色々たっぷり、手のかかった美味しい料理に満足。裏ルート故なのか登山者が少なく部屋も広く使えてゆっくり休むことが出来た。

8月21日 岳沢～前穂高～奥穂高～穂高岳山荘

3時50分に出発。ヘッドランプを遠く照らして石にマークされた丸印を確認しながら重太郎新道をのっけから岩につかまりながら登って行く。カモシカの立場、岳沢パノラマ、雷鳥の広場、紀美子平まで、それぞれの地点の標高とコースタイムを確認してそれを目標にした。カモ





シカの立場に立つと、上高地は雲海に沈み、左前方に霞沢岳の長い稜線が美しいシルエットで迫り、正面に焼岳がどっしりと鎮座していた。岳沢パノラマを越えて見上げれば明神岳から続く穂高の稜線が上から迫ってくる。「あれが吊り尾根？あそこが紀美子平？前穂はどこ？」まだまだ、はるか遠い雲の上。道はどんどん厳しくなる。よくこんなところに道を造ったもんだと思うけれど、急な岩場でも、手を掛ける所、足を置く所が作ってあり、そこに一手一足を確実に置いていけば困ることなく登って行ける。ありがたいこと！前にそびえる岩を乗り越えるとそこが紀美子平だった。唯一平らな所だけど、こんなところに紀美子ちゃんが寝かされていたと思うとちょっと怖い。ザックをデポして前穂高に向かった。ここからは瓦礫の岩につかまりながら登る。前穂高も吊り尾根に続

く奥穂高も白い瓦礫が支えあって山を形成している。どこか一つ岩を取り除けばガラガラと音を立てて崩れ落ちそうだ。頂上でも岩を渡り歩く。東を覗いて北尾根2〜3峰を見て、南の端から上高地と奥又白池を見た。北には吊り尾根の先に奥穂高、下ったところに今夜泊まる穂高岳山荘がちらと見えた。

ガスが上がってきたので下山する。中間あたりでパラパラとヘリの爆音が聞こえてきた。みんな足を止めてヘリを目で追う。どこへ？ジャンダルムの下の沢上でホバリングを始める。その後、ヘリは二回旋回して三回目には勢いよく飛び去って行った。ピックアップされたのを見届けてから、みんなより緊張して岩を降りていく。吊り尾根の登山道は尾根筋より下をトラバースするようにつけられていた。左側は岳沢に切れ落ちている。バランスを崩せば沢を転がり落ちるだろう。自然と右足に力が入る。遠目にはなだらかに見える吊り尾根も奥穂へのとりつき、南稜の頭までは3〜4の峰を越え、二時間半、やっと西穂高方面への分岐に着いた。「あっちがジャンだよな？」標識の向こうはガスっていて先は見えない。奥穂高の頂点はケルンの上にお社が西を向いて鎮座していた。北アルプスの山々、特に北穂高から続く槍ヶ岳を見たかったけど、ガスがどんどん広がって展望は全くダメだった。涸沢側を恐々のぞき込むと、前穂高北尾根の絶壁が迫力満点！雨が降らないうちに小屋への急登を下りなければと下山を急いだ。滑落事故が多い小屋への下りは二つの梯子があり緊張したが、無事に下ることが出来た。穂高岳山荘は白出のコル上にあり、東に涸沢カール、西は白出沢、南北を奥穂岳と涸沢岳に挟まれ絶景の立地にある。東西のテラスからは夕焼けも日の出も良く見える。テラスで多くの人がくつろいでいた。

夕食後そこそこに入眠。夜中一時に目が覚め外に出ると満天の星空だった。

8月22日 穂高岳山荘～涸沢～横尾～西糸屋山荘

4時に起き朝弁を少し食べてテラスに出る。東の空がピンク色に染まっている。奥穂への取り付きにはヘッドランプの灯がチラチラし既に登り始めている人もいた。

御来光に手を合わせて下山にとりかかる。すぐに明るくなりランプは不要となった。上から見るザイテングラードは短く低い山の尾根に見えた。短いな、あそこまで下りたら楽勝だと思っていると、「そんなに楽じゃないよ。なかなか降りれへんよ」とリーダーに釘を刺された。ここも事故が多い所だ。足元を確認しながら慎重に下って行く。途中で振り返るたびに穂高が遠のき高くなっていき、代わりに前穂の岩峰が迫力を増してきた。ザイテングラードの終わりは

特に急な岩場で登ってくる人をおかわすのが大変だったが、まだ登山者が少ない時間帯だったので比較的早く降りることが出来た。7時、涸沢ヒュッテまでくると、もう下界に降りた気分。デッキで穂高連峰を見上げながらコーヒーを飲む至福の時。北穂に向かう人が南穂の下に見え隠れしている。左に視線を流し奥穂から降りてきた道を辿る。あんなに苦労して登ったのにもう降りてきたと実感しながら更に下界へと下っていく。本谷橋で河原に降りて、ほてった足を水に浸ける。雪解け水のように冷たく5秒と浸けていられない。それでもめっちゃくちゃ癒されて足が軽くなった。徳澤園でお昼休憩をして西糸屋山荘に着いたのが14時半、私たちが一番のりだった。15時からお風呂に入れた。ゆっくり疲れを癒して翌日の焼岳登山のために不要な荷物を整理して宅急便にした。夕食時はみんな山行の話で大盛り上がり。寝床に着いてからも楽しそうに談笑している声が廊下に響いていた。

8月23日 西糸屋山荘～焼岳～中の湯バス停

3時に起床。朝食を少し食べて4時に出発。ヘッドランプを頼りに真っ暗な川沿いの道を登山口に向かう。クマが出ないかと恐々、リーダーが笛をピピッと吹きながら、大きな段差を越える度「ヨイショ！どっこいしょ！」と声を掛け合い軍隊のごとく行進した。梓川がずいぶん下になり、焼岳のかつて溶岩が流れた深い沢に来ると、ほぼ垂直の長いはしごがあった。一人ずつ慎重に登って進むと峠に着いた。焼岳小屋でトイレを借り、水を補給していざ山頂へ。登りの道はザレ場で歩きにくく、所々でガスが噴き出し硫黄の臭いが鼻をついた。滑りやすく下りだったら怖いと思った。火口まで来て北峰に登った。足下に広がる爆裂口には池があり、端から蒸気が噴き出していた。周囲は奇怪な溶岩の塊で囲まれている。上高地から見る焼岳からは想像もできない荒々しい姿ですごい迫力だ。眺望は抜群！新穂高温泉街に麓



をなす笠ヶ岳がゆったりと雄々しく聳えていた。北方には雲があって穂高連峰が見え隠れし、雲のカーテンが開く度に私たちは歓声を上げシャッターをきった。噴火口を見下ろして座り、周りの溶岩の形を動物になぞらえて笑いあい、ここまで来れた喜びをかみしめた。「あそこまで行ってここまで来たんだよね。」穂高と笠ヶ岳の雄姿に感動しながら、「次はあの山へ行こう」と先の夢を膨らませた。

尾内さん、高島さん、たった3人のパーティでしたが、お二人にリードしてもらって憧れの穂高に行くことが出来、無事に帰ってこられたことに只々感謝しています。ありがとうございました。

追記\* 重太郎新道の途中で思いがけない人に出会った。聞けば加西の人で、今回別グループで槍ヶ岳コースに参加しているNさんの知り合いの方だった。単独で入山し、明日は一旦涸沢に下りて北穂に登り、キレットを越えて槍に向かうと言われる。73歳のMさん、50年ぶりの穂高挑戦と聞きびっくり!!それから後になり先になり涸沢に下りるまで私達を見守って下さり、沢山の勇気を頂いた。有難うございました。



## ■③コース 槍ヶ岳 表銀座コース

●日 程：8月19日(土)～22日(火)

●参加者：L須増 SL安田 島谷 村上

●行動記録：

(19日)：中房温泉7:35発～燕岳登山口(7:40着)～第二ベンチ(9:00着)9:10発～合戦小屋(11:40着)12:00発～燕山荘(13:45着)

(20日)：燕山荘4:00発～燕岳(4:35着)4:55発～燕山荘(5:30着)6:20発～大下りノ頭(7:20着)～喜作レリーフ(9:15着)～大天荘(10:15着)10:40発～大天井岳(11:00着)～大天荘(11:15着)～大天井ヒュッテ(12:05着)12:40発～赤岩岳(14:40着)～ヒュッテ西岳(15:40着)

(21日)：ヒュッテ西岳5:40発～水俣乗越(7:05着)7:15発～ヒュッテ大槍(9:35着)10:10発～槍ヶ岳山荘(11:20着)11:55発～槍ヶ岳(12:25着)12:40発～槍ヶ岳山荘(13:15着)

(22日)：槍ヶ岳山荘5:30発～槍沢ロッジ(9:45着)10:05発～横尾山荘(11:55着)12:30発～徳澤園(13:35着)13:50発～明神分岐(14:40着)14:55発～西糸屋山荘(15:55着)

## ◆表銀座コース 燕岳から槍ヶ岳 (2023.8.18～23)

村上

8月18日(金)晴れ。姫路発8時11分ひかりに乗車、集合の穂高駅には12時49分着。元気者三人組は、大きなリュックを背負って礫山美術館へ。明治時代、ロダンに認められた彫刻家、萩原守衛(礫山)のレンガ造りの美術館です。礫山は僅か30歳で亡くなっていますが残された作品を見られる所です。14時40分頃に穂高駅でLと合流して登山口(標高1450m)の中房温泉へはバスで約1時間程です。登山スタート前に温泉三昧です。

8月19日(土)晴れ。燕山荘からの天気予報では、午前中は晴れて、午後には雨や雷雨の恐れあり。朝食後、7時半頃から登山開始。今日は標高差1260mの急登です。第一ベンチ。第二ベンチと森林浴をしながら歩幅を狭く登り。第三ベンチを過ぎると標高も2000mを超えます。富士見ベンチでは、残念ながら富士山は見えませんが爽やかな風が心地よくほっと一息。汗びっしょりで、やっとたどり着いた合戦小屋では、待望の甘いスイカを美味しくいただきました。北アルプスの三大急登の1つ合戦尾根を登り、リンドウやトリカブトの高山の花々の咲き乱れる斜面を見ながら、13時半頃に燕山荘へ到着。先ずはお楽しみの珈琲&ケーキを楽しんでいるといきなりスコールのような大雨。燕岳への登山は諦めて2763mの頂上稜線にあるアルプスでも歴史のある山小屋を楽しむ事になりました。夕食時にはオーナーの山のお話を伺いホルンの演奏を聞きました。雨が上がった後の夕焼けに大勢の人が外に出てうっとり、皆さんカメラに収めようとしています。



8月20日(土)晴れ。早朝4時、暗闇の中ライトを頼りに燕岳に登る。4時

半東の雲海が朱色に染まる。頂上で日の出を仰いで眼鏡岩や、朝焼けに染まった口元のイルカ岩を見ながら小屋に戻り出発の準備をする。表銀座縦走コースのスタートです。6時半頃からコマクサがなごりおしそうに咲いているザレ場を横目に尾根コース登り下り。雷鳥にも出会うことが出来ました。鎖やはしごも慎重に通過。喜作レリーフ碑の分岐を過ぎて大天荘に着くころは辺り一面真っ白なガスに覆われていました。頂上まで10分。登頂はLに任せて女性陣は大天荘で珈琲タイムです。標高差250m程下り12時半頃に大天井ヒュッテで昼食を食べているとポツンと雨が降り出しました。雨具を付けて喜作新道を行くうちに雷も光りだして、怖がりの私は雷光が光るごとに地面にへたり込みました。1時間半位で雨も上りほっとしました。14時過ぎには赤岩岳をまいて、岩場に張り付くような登山道を緊張の連続で通過してヒュッテ西岳に到着。食堂から見える常念岳の先には、昨年登った蝶ヶ岳が見えました。

8月21日(日)晴れ。6時頃遠くに槍ヶ岳を見ながら小屋を出発。東鎌尾根では、数え切れないはしごや階段、岩場を登り下りし、両側切れ落ちたキレットを通過して9時半頃ヒュッテ大槍に着いた時は何とも言えない安堵感に包まれました。美味しいアイスクーキと紅茶を頂き一休み。又いつか来てみたい山小屋でしたが・・・遠すぎる。鎖場と岩場をよじ登り約1時間で槍ヶ岳山荘に到着した。曇っているが昼前に槍ヶ岳登頂を始める。登山道は登り下りが分かれていて危険回避している。12時20分頃、憧れの槍ヶ岳山頂に立つ。一瞬の風でガスの切れ間に槍ヶ岳山荘が見えた。ゆっくり20分位いてから下山を始める。かなりの急登だが鎖もはしごも岩場も先に降りた人の指示もあり落ち着いて下山できた。槍ヶ岳山荘では上田さんグループと談話室でご一緒させて頂いた。



8月22日(月)晴れ。山荘から美しい日の出を眺め5時半頃出発。標高差1500mを一気に下山する。横尾尾根の岩場を下山中、岩の間から水が湧き出ている場所があった。濡れながらボトル2本に入れる。家に帰ってからこの山の水でコーヒーを入れて飲むのが楽しみだ。槍沢ロッジで一休み。横尾山荘で昼のラーメンを食べることができた。疲れきった体に美味しかった。ここからは何度か通った道だ。徳沢ロッジでアイスクリームを食べ、明神館で安曇野のヨーグルトを飲み梓川沿いをひたすら歩く。15時40分頃、河童橋に着きました。上高地は今や人間と猿が共存していた。西糸谷山荘の周りにも猿の群れが・・・山荘に着いて他のメンバーと出会い、穂高の山々を見ながらの入浴は最高の気分でした。

8月23日(火)晴れ。早朝、連れ立って朝の散策。朝食の後は名物のリンゴがゴロゴロ入ったアップルパイにコーヒーを堪能して、9時30分の上高地発のバスに乗り、新幹線で夕刻には帰り着きました。グループ年長者の私の足に合わせて下さった皆さんに感謝です。



## ■④コース 折立～雲ノ平～新穂高温泉

●日 程：8月19日(土)～23日(水)

●参加者：L野村 SL春本 吉村

●行動記録：

(19日)：富山駅北口 いるかホテル (ポルファートやまと 2F) 宿泊

(20日)：タクシー5:15 発～折立(6:30 着)7:00 発～三角点(9:10 着)9:20 発～五光岩ベンチ(11:13 着)12:30 発～太郎平小屋(13:00 着)薬師沢小屋(16:00 着)[泊]

(21日)：薬師沢小屋5:00 発～アラスカ庭園(8:20 着)9:10 発～アルプス庭園(9:30 着)9:50 発～雲ノ平山荘(10:00 着)～キャンプ場分岐(10:40 着)～徒渉点(13:30 着)～三俣山荘(14:40 着)[泊]

(22日)：三俣山荘5:00 発～三俣分岐6:00 発～双六小屋(8:00 着)8:30 発～弓折乗越(9:41 着)10:20 発～鏡平山荘(10:40 着)～秩父沢出合(12:15 着)～(13:25)わさび平小屋(13:35)～新穂高温泉駅(14:50 着)14:55 発～平湯温泉(16:00 着)(16:25 発～上高地～西糸谷山荘(16:40 着)[泊]

(23日)：上高地 BT10:00 発～平湯～高山 BT(11:30 着)

### ◆夏山集中山行に参加して

吉村

前書、8/10頃より両足が赤く腫れ、ただれるアクシデントに見舞われ14日より飲み薬、塗り薬治療18日の診察で山行出来る目途がつきほっとする。

20日(日)折立(富山県)より7:00 出発し、太郎兵衛平までは急峻な樹林帯を足元に注意しながら、三角点・五光岩ベンチと尾根筋を1,000m程登ると見晴らしの良い太郎兵衛平へ着く太郎平小屋(半世紀前の面影はない)で小休止後右手に太郎山(2373m)を仰ぎ見ながら、3か所の徒渉点を渡り400m程下ると薬師沢小屋(黒部川と薬師沢合流点は往時のまま)に16:00 着く。テラスもあり立派な山小屋に変貌していた。ビールで喉を潤し夕食(食欲なし)後就寝(眠気なし)する。



本日の行程は、約11Km・9時間

21日(月)5:00 出発「薬師沢出合吊橋」は堅固な吊橋に変わっていた。黒部川を少し下り(増水時は通行不可)雲の平を目指し、急峻な昇りが続く800m程登り切ると「アラスカ」「奥日本」「アルプス」(展望台まで散策)「ギリシャ」と各庭園の自然の造形美を堪能しながら、整備された木道(所々朽ちた場所あり要注意)を進むと雲の平山荘(洒落た山小屋)に着く。北に薬師岳(2926m)東に水晶岳(2978m)鷲羽岳(2924m)南に黒部五郎岳(2840m)等の百名山の眺望は素晴らしい。300m程下り黒部川源流の徒渉点を渡り200m程登れば三俣山荘(富山、長野県境)に14:40 着く。キャンプ場にて飲料水を確保し、夕食は「ジビエ料理シチュー」うまそう!少し食欲有り半分程頂く。休憩室にて「黒部の山賊」

(三俣山荘を舞台) のビデオを観賞して床に着く。(少し眠れた)

本日の行程は約 8.5 Km・10 時間

22日(火) 4:30 床、附近散策、モルゲンロートをカメラに納める。天気良好(冷込なし) 5:00 出発北は鷲羽岳、野口五郎岳(2924m)、烏帽子岳(2628m)七倉ルート(半世紀前のルート)西は、三俣蓮華岳(2841m)黒部五郎岳ルート、南は今回の三俣蓮華岳、双六岳(2860m)たおやかな稜線の巻道コースを歩く。途中より双六小屋より急峻な道を下ると、双六岳小屋(大きな立派な小屋)に辿り着く。直進(東)は樺沢岳(2755m)より槍ヶ岳(3180m)に至るルート、今回は右折(南)、弓折岳(2588m)方面へ進む弓折乗越より急峻な下り坂をゆっくりと下ると鏡平山荘。鏡平より槍、穂高連峰(3190m)の百名山の雄姿が迫る。残念ながら鏡池よりの両山との水面の組み合わせが見られなかった。西側に笠ヶ岳(2898m)の百名山を望みながら、小池新道(立派な石畳)をわさび平小屋(そうめんが人気)を目指して下山する。わさび平より蒲田川左俣谷沿いの林道を下り、新穂高バス停へ14:50 無事下山する。14:55 濃尾バスで平湯へアルピコ交通で上高地へ、河童橋より穂高連峰の雄姿、程無く西糸屋山荘(別館)へ16:40 到着する。

記念写真の後温泉で「汗と疲れ」を流し「宴会」にて夏山集中山行を終える。

本日の行程は約 17 Km・10 時間

23日(水) 上高地バスターミナル 10:00 濃飛バスにて高山市で昼食、市街地散策。

天候に恵まれ、きつく、楽しい山行でした。L、SL、各位ありがとうございました。



## ■⑤コース 新穂高～槍ヶ岳～上高地

●日 程：8月20日(日)～22日(火)

●参加者：L上田 SL森本 大塚 小田 西脇 本田 山下

●行動記録：

(20日)：新穂高6:10発～穂高平小屋(7:35着)7:40発～白出沢出会(8:35着)8:50発～チビ谷出会10:10～滝谷出会(10:50着)11:10発～槍平小屋(12:50着)

(21日)：槍平小屋6:25発～中ノ沢出会7:20～休憩7:50～8:00(2チーム行動)～千丈分岐(9:30着)9:40発～2700m10:15～2800m10:45～2900m11:20～飛騨乗越(11:50着)12:00発～槍ヶ岳山荘(12:20着)  
※後続チーム千丈分岐(9:40着)10:00発～飛騨乗越(12:15着)12:30発～槍ヶ岳山荘(13:00着)

(22日)：槍ヶ岳山荘4:10発～槍ヶ岳山頂(4:50着)5:15発～槍ヶ岳山荘(5:45着)6:05発～グリーンバンド6:30～幡隆窟(7:00着)7:15発～天狗原分岐(8:15着)8:20発～槍沢ロッジ(10:35着)10:40発～二俣(11:15着)11:25発～横尾(12:30着)13:00発～徳沢(14:00着)14:15発～明神(15:10着)15:15発～西糸屋山荘(16:15着)

### ◆ “槍” が待っている！

西脇

8月19日 大阪からの夜行バスで出発だ。…山行を決めたのは今年より若い時はないから。体力に不安はあり、日々のトレ・減量？を試みた…。成果は登頂だ！

8月20日 早朝 新穂高温泉到着。天候よし、さわやかだ。さあ、登るぞー。  
ロープウェイ乗場、駐車場を過ぎて林道を進んで行く。広い道路で大型工事車両OKだ。周りは国有林でかなり奥まで整備され、土木機械も路肩等に見られた。  
沢沿いの登山者休憩所からは山道へと進む。穂高平小屋で小休止。奥穂岳登山口が右手に。…白出沢出会に着き休息。大きな石・岩がゴロゴロする谷奥から沢水が流れ、清涼感を満喫。次に登山道に。道はゴツゴツした比較的大きな石、又 尖った石・湿った木の根でバランス取りに疲れる。沢沿いはぬかるみもあり要注意。

…滝谷出会に。沢を流れおちてくる冷たい水に手を浸し休息。木橋で広い沢を横切ると岩に滝谷初登攀者の藤木レリーフが。南沢を渡りあと少しのところ、雨。雨具・ザックカバー装着。あと少しなのに…。階段を上がっていくと槍平小屋だった。着いた！ 雨具等乾燥へ。そして各々癒しタイム…ビール・かき氷。すっきりする。…小屋夕食はカレー。明日は天気になーれ！



8月21日 好天！“槍”へ出発。テント場を通り林道へ。急な登り、木の根と石ころの道は不安定だ。そうした時“メンバーの一人の足が進まない”との事。

どうする？…リーダー(L)のアドバイスはザックの重量減…メンバーで持合い、ザックの担ぎ



方の改善、皆での完登を鼓舞！そしてSLが先行隊指揮。Lがサポートし2人で後行するとのこと。適格な対応・決断に力強い思いが。…サー“槍”を目指そう！

先行隊で登っていく。行程の中で“虫”がまとわりつく場面では各人がネットを被る・虫よけスプレーを吹き付ける対応を。更に登っていくと視野がひらけ、千丈分岐に出た。

ここからは広い斜面をジグザグに登る。ガレ場・ゴロゴロした石や岩のゴーロで足元の石がガラガラと鳴り足がふらつく。…登山道に標高看板がある。2600m、2700m小休憩をとりながら登る。2800m付近でリーダーから落石対策のヘルメットをつける指示が。上からガスがかかってきた…2900mへ。あとひと踏ん張りで飛驒乗越にたどり着く。

右手奥に“槍”が見えた！ テント場が現れ 赤い槍ヶ岳山荘に着く〈12:20〉。大勢の登山者がいた。そして“槍”が荘厳な姿で迎えてくれた。すばらしい！

…午後は天候不順という事で登頂は明日の日の出に変更。先着の③表銀座班と合流し楽しく懇談・夕食。

朝4時出発の登頂準備をして就寝。…ワクワク期待感で寝つけず、未明に山荘外に。

と…すばらしい！“槍”と天空一面の星。鮮やか！…輝かしく幻想とも思える場に立っていた！…間違いなく“槍”が待っている！ 来てよかった！

## ◆登れてよかった槍ヶ岳

## 山下

8月22日午前4時、キレイな星空の中を、リーダーを先頭に、ヘルメットをかぶりヘッドランプを照らしながら槍ヶ岳山荘から槍ヶ岳山頂に向かった。出だしは、普通だが岩場になってくると足だけでなく手も使わないといけなくなり、前の人が登って行った所を確認しながら三点確保を意識し、間隔を開けて慎重に登って行くと、鎖場やハシゴ場が出てきた。鎖場は、鎖に頼らず補助程度にしながら登りハシゴは、ゆっくりと間隔を開けて登って行き最後のハシゴになった。このハシゴが一番長くてほぼ垂直になっているが、あまり気にすることなく頂上まで登ることができた。

頂上には、まだ誰もいなく一番乗りだったみたいだ。日の出迄時間があるので、槍ヶ岳のプレートを持ち写真を、一人一人撮ってもらい、頂上から見える景色や、遠くに見える富士山などを眺めていると、太陽が、登ってきて赤く染めだしキレイな日の出を見る事ができた。

人も増え日の出も見れたので直に下山し始めた。登りは暗い時間帯だったのであまり気にならなかったが、周りが明るくなっているのが恐怖心が出るかと思ったが、それほどでもなく後について下りることができ槍ヶ岳山荘に着いた。

6時出発で上高地に向かい下山を始めた。岩が小さく砕けた登山道を下って殺生ヒュッテを過ぎ播隆窟に着いたところで、朝食の槍ヶ岳山荘で作ってもらった弁当を食べて、集合写真を取り出発した。下りの勾配は、天狗原分岐を抜けて少し行った所から勾配もゆるくなり歩きやすくなってきた所の木陰で休憩をした。休憩中に、今まで下ってきた足を、解すストレッチをM氏から教わりやってみた。その後川沿いを順調に歩き横尾までやってきた。12時を過ぎていたので横尾で昼飯を食べてから上高地へと向かった。徳沢から上高地へ



は、昨年皆についていけず遅れてしまったところで嫌な思いのあるところなのでとくに意識してついて行ったら遅れることなく西糸屋山荘につく事ができた。最後まで行けたのは、リーダーや山行メンバーのおかげです。どうも有難うございました。

## ■工石山と牧野植物園 高知県

## ＜女性委員会＞

●日 程：8月26日(土)～27日(日)

●参加者：L藤原(千) SL矢根 阿部 大谷 佐野 平石 待場 山本(清)

●行動記録：

(26日)：工石山青少年の家 10:44 発～登山口(10:50 着)11:02 発～杖塚(11:30 着)11:37～白鷺岩(11:59 着)12:09 発～工石山北峯(12:54 着)13:00 発～工石山(13:09 着)13:38 発～風の谷(14:00 着)14:10 発～賽の河原(14:03 着)～杖塚(15:11 着)15:21 発～登山口(15:43 着)15:53 発～工石山青少年の家(15:59 着)

(27日)：ホテル 7:40 発～宝永町～高知駅(8:31 着)8:40 発～蓮池町通(8:45 着)～日曜市～高知城前 9:40 発～牧野植物園(10:30 着)～散策～14:30 発～高知駅(15:01 着)

## ◆高知市民が愛する自然豊かな山 “工石山”

## 平石

高知市の中心部から30Km、市街地を見下ろすように聳えるのが標高1177mの工石山です。森を歩けばバリエーション豊かな絶景の数々！！ NHK 朝の連続ドラマ“らんまん”のあの植物学者が愛した花々との出会いも楽しみの山です。山中に転がる大きな岩、一説には飢えに苦しむ平家の落人が「この石が食えるものなら」と嘆いたことから“くいし山”と呼ばれるようになったとか。高知出身の植物学者牧野富太郎もこの山に足繫く通ったらしい。

爽やかな木漏れ日の中、登山口から続くなだらかな道を行くと、何とも不思議な風景が至る所がありました。きれいな小鳥の鳴き声を聞きながらゆっくり登っていくと、足元には牧野富太郎ゆかりの植物たちが広がっており、名前を思い出そうとしましたが・・・登山口から1時間ほど歩いたところには、山から突き出た大きな白い岩があり、その形が鷲の口ばしに似ていることから“白鷺岩”と呼ばれている。絶壁になっているけれどそこからの景色が凄かったので、その岩にみんな代わるがわる登ったり、嬉しそうに写真を撮ったりしました。その後もトド岩や桧屏風岩などの奇岩が次々に現れ思わず足を止めて見上げてしまいました。工石山北峰から案内板にある石鎚山方面を眺めましたが、残念ながら西日本最高峰の石鎚山は雲に隠れて見えませんでした。工石山山頂には13時過ぎに着き少し遅めの昼食を済ませ、幾重にも重なる四国の山々を眺め楽しみました。

下山は、シャクナゲの道(大きなシャクナゲの木がトンネルになっている)を下りました。

可憐な花、大きな奇岩の数々、台風で倒れた杉の幼木が一斉に空に向かって成長している不思議な風景はまるでアートのように！！とても変化にとんだ素晴



らしい山でした。いつか機会があればシャクナゲの花でトンネルができている頃に歩いてみたいなあ～と思いました。

リーダー！！楽しかった山行をありがとうございました。ご一緒いただきました皆様ありがとうございました。

## ◆8/27 高知市内観光

大谷

今日もお天気が良くて大変暑いですが、高知市内を観光する。昨日、Yさんが用意してくれた一日乗り放題、MY遊バス乗車券（路面電車、バス共用）でホテルを出て、路面電車で高知駅に行って、ザックをロッカーに入れてから、又、電車に乗り、土佐の日曜市をしている蓮池町まで行った。

終日、路上で開かれる市としては、日本一の規模で歴史も古いようで、1丁目～6丁目まである。興味津々で行ったが、確かに出店数は多いが、岐阜県高山の朝市の方が良かった様な気がする。

今回はバスに乗って、高知県立牧野植物園（五台山の景観に溶け込むように、約8haの広大な敷地に3,000種類以上の植物がある）に。しかし、私は、昨日の登山で足を痛めて歩き回る事が出来ないで、入口付近を少し散策して休憩所で時間を潰したので、ほとんど何も見ずに終わった。次回、来るときは、春の花の季節に訪れてみたいと思います。それから、懐かしい路面電車に乗れたことがとてもよかったです。



## ■由良ヶ岳（640m）

<女性委員会>

●日 程：9月2日（土）

●参加者：A班L尾内 SL小田 岡田（淳）坂本 笹木 佐野 田中（由）  
B班L高島 SL中村 田中（重） 苦瓜 春本 松岡 村上

●行動記録：丹後由良駅（10:07 着）10:18 発～丹後由良荘登山口（10:33 着）10:35 発～  
鞍部（12:35 着）12:40 発～由良ヶ岳東峰（昼食）（12:50 着）13:30 発～鞍部 13:35 発  
～由良ヶ岳西峰（14:40 着）14:10 発～鞍部 14:30 発～登山口（15:45 着）15:55 発  
～丹後由良駅（16:10 着）16:40 発



## ◆山頂からの眺めは最高だった

## 尾内

由良ヶ岳の登山口に近い京都丹後鉄道丹後由良駅へは、姫路方面からは和田山経由で、加古川方面からは谷川経由で福知山に入り、舞鶴線に乗換え、西舞鶴駅から京都丹後鉄道に乗る。

由良川の河口にかかる鉄橋を渡れば丹後由良駅であった。黄金色に色づいた稲穂は、もう刈り取りが始まっていた。田園風景を楽しみ、初めて乗る京都丹後鉄道にカメラを向ける。

駅からは、車道をこれから登る双耳峰の由良ヶ岳を眺めながら10分ほど歩くと丹後由良山荘があり、その奥に登山口があった。

登山道は、降雨によって掘れ込んだのか狭く歩きにくい尾根道である。樹林帯の急登を暑さと相まってあえぎあえぎ、鞍部を目指して歩く。平たんになったと喜ぶのもつかの間、また、急登が続く。2時間30分かかってやっと明るくなって、鞍部に辿り着く。

ここから東峰を目指してもうひと頑張り。頂上までは、思ったより近かった。目の前に360度の展望が開けて歓声を上げた。苦勞して登ってきたご褒美である。

目の前に秀峰青葉山が鎮座している。先の山行で登った人は感慨もひとしおであろう。北には大江山山塊が、その後ろには丹波の山並みが眺められた。汽笛が聞こえ、丹後鉄道の電車が鉄橋を渡っている。1両編成で毛虫のようだと笑い声。駅舎から登ってきた道も確認できた。由良川、鉄橋、河口、由良浜、舞鶴湾、海岸と見飽きることがない。



虚空蔵菩薩の祠があるところで、眺望を楽しみながら昼食をいただく。ずっと眺めていたところだが、西峰が待っている。

鞍部に戻って、西峰を目指す。西峰へは、広々としたなだらかな歩きやすい道である。頂上へは、25分程で到着できた。西峰は、東峰ほど開けていないが、三角点と天橋立を確認して、写真を撮ろうとした時、突然、爆音が聞こえた。振り向くとバイクが上がってきた。皆、仰天、お兄さんも仰天、7合目までの林道から走ってきたとの事、誰も来られないと思っていたのに、写真を撮って頂けてラッキーでした。

頂上には1本のやまなしの木が実をたわわにつけているのに感動、宮沢賢治の童話を思い出す。

電車の時間があるので、早々と下山開始。

下山の激下りは、さらに慎重に足を運ぶ。16時10分全員無事に駅に到着することができ、ほっとする。予定の16時40分の電車に乗ることができた。



早朝から夜遅くまでの山行だったが、車窓の旅と頂上からの素晴らしい展望を楽しめた充実したいい1日であった。

